

企画事業「青少年を対象とした事業」

「子どもエコキャンプ」

①子どもエコキャンプ

～発見、体験、富士山の自然から環境を学ぼう～

平成22年12月25日（土）

～12月27日（月）（2泊3日）



後援：静岡県・山梨県教育委員会、御殿場市・裾野市・小山町教育委員会

I 事業の背景

本所では小学生を対象にした、竹炭作りを題材に子ども達が地域の自然環境に触れる機会として、また、共同生活を通じて責任感・自立心を育むことをテーマに「エコキャンプ」を行なってきた。本年度は、さらに様々な環境学習活動を通じて自然に親しみ、子ども達の環境保全の意識を高めること、また、小学生と青年と一緒に活動を行なうことによって、各年代における役割や責任を認識することにつながると考えた。

II 事業の概要

1 趣旨

富士山の自然環境学習を中心に、様々な環境学習活動を通じて、自然に親しみ、環境保全の意識や態度を育みます。また、異なる地域、学校の子供達との共同生活を通じて、責任感、自立心及び協調性を培います。

2 参加対象

- ①子どもエコキャンプ参加児童 小学校4年生～6年生 約80名
②ボランティアスタッフ 高校生から30歳未満の青年 約15名

3 参加状況

①子どもエコキャンプ（人）

	男子	女子	計
4年生	24	15	39
5年生	5	9	14
6年生	7	11	18
計	36	35	71

静岡県 山梨県
御殿場市 甲府市
裾野市 甲斐市
小山町
三島市 より

4 企画のポイント

①運営のポイント

- 小学生を学年・男女バランスよく9グループに分け、グループには担当のボランティアスタッフが入り、生活・活動と一緒に指し導することで、学年や男女による子ども達の役割を明確にし、安定して自分たちで生活をおくることができるようにした。
- ボランティアスタッフの心得と役割について、一人ひとりに資料を配付し常に意識して活動できるようにした。

②安全管理のポイント

- 活動前にスタッフ打ち合わせを行い、安全のための留意事項や考えられる危険な行動などのシミュレーションを行った。
- キャンプ中は朝と晩にボランティアスタッフによる参加者の健康確認を行なった。

5 実施内容・参加者の様子

1 2月25日《1日目》

- 「フィールドビンゴ」で仲間との交流
- 自分で見つけた自然の素材でクラフト
- 環境に優しい「エコ・クッキング」



【「水」を大切に使うクッキングをしました】

1 2月26日《2日目》

- 富士ビジターセンターで学習会
- 富岳風穴～青木ヶ原樹海～鳴沢氷穴
～雄大な自然を探検！～



【みんなで自然を体験し感動しました】

1 2月27日《3日目》

- グループごとに「環境新聞づくり」
～自分にできることは何か？～



「環境新聞」



【環境を意識するようになりました】

- ・毎日の生活の中で自分にできることは何かを考えるようになった。
- ・初めて会う友だちと仲良く楽しむことができうれしかった。新しい友だちがたくさんできた。
- ・環境について意識して生活しようと思った。
- ・知らなかったことを発見して良かった。(小学生)

- ・子ども達は自然とふれあい、新しい友だちをつくりとても良い表情でした。
- ・スタッフとして活動したこと全てが自分自身にとって大きな成果でした。
- ・他のスタッフの行動を見て多くのことを学ぶことができました。(ボランティア)

Ⅲ 事業ノウハウ

(1) 広報

周辺各市町村の教育委員会に直接訪問し、事業の説明とともに各小学校への参加依頼に協力をしていただくようお願いした。対象となる児童一人ひとりにチラシを配付することで興味・関心を促した。

(2) プログラム

子どもたちの学習意欲を喚起するために、体験を重視した学習活動の展開が重要と考えた。しかし、寒さなどによる活動への負担が多くプログラムの検討が必要であった。

(3) 成果を引き出す工夫

環境保全に対する意識を高めるために、活動時に気づいたこと、学んだことなどを記録しておけるように、一人ひとりがメモ帳を持ち行動した。個人の学びをグループで共有し成果としてまとめるための時間を毎晩設けた。

担当：企画指導専門職 望月 省吾